学校経営力向上のためのステップアップ通信『一歩先へ！』　～「学校経営APを実効性のある計画書に！」～

子どもたちの笑顔・元気のために　Ｒ５年度　第11号
津山教育事務所2月

校長が考える学校経営の「一歩先へ！」を実現する

第2回ＡＰ訪問が1月23日に終了いたしました。校長先生をはじめ教職員の皆様には、ＡＰの説明・協議、授業参観と大変お世話になりました。授業改善の風土が校内研修、OJTを通じて広がっていることや教務主任や学力担当者等の学校リーダーが大きく成長してきていることを感じることができた訪問でもありました。訪問を通じての「津事管内の学校の成果と今後」という視点で記述させていただきます。

成果

＜共有・組織・主任＞
◎「めざす子どもの姿」を具体化して共有を図ることや取組の実践交流を研修に位置付ける学校が増えています。
◎APの理解度が進み、校内リーダーが取組の詳細を説明する学校が多くなっています。中堅層の成長が感じられました。
◎第１回の面談を受けて、取組内容を具体化・焦点化しています。
◎全ての職員が主体的に協働的に参加する校内研修をつくることや学び合う教職員集団をつくるための風土づくりに力を入れている学校がでてきています。

＜授業改善・研修＞
◎小中とも授業改善を中心に据え、児童・生徒の資質能力を伸ばそうとしています。
◎対話的な学びの場の設定は多くの学校でできてきています。中学校においても生徒から引き出そうとする教師の意識の向上が感じられ場面が多くなりました。
◎ICTの活用度は上がっており。効果的に使えている場面も増えています。
◎授業の中でも非認知能力を育てようとする取組が多くなってきています。
◎児童生徒がICTを含めた学習用具や学び方を選択する場面が見られるようになってきています。
◎授業と家庭学習をつなごうとしていたり、主体的に家庭学習に関わらそうとしている学校が増えてきています。

今後

＜共有・組織・主任＞
▲教職員の共有が図られている学校とそうでない学校の2極化が進んでいます。校長の方針の不明確さや職員の納得感や必要感を生み出すことができていないことが原因の一つになっていると考えられます。
▲アンケートを指標としたときの妥当性や児童・生徒との達成した時の姿の共有ができていない事例があります。
▲アンケート結果等の分析が不十分なため具体的な改善策に結び付いていない場合があります。
▲手段が目的化している取組があり、育てたい力が育っているのかの視点を見失わないようにする必要があります。

＜授業改善・研修＞
▲深い学びにつなげようとする意識や手立てが不十分な学び合いの場面があります。
▲評価規準が不明確で（ねらいが不明確）、学習評価が授業改善につながっていない場合があります。
▲「学びに向かう力、人間性」と非認知能力とを整理して取り組む必要があります。
▲家庭学習でどんな力を育てるのかを再確認して取り組む必要があるのではないでしょうか。主体的に学習に取り組む習慣や態度を育てることが大切だと思います。「粘り強く取り組むことができる力」や「自らの学習を調整しようとする力」（自らの課題を自覚し、計画を立てる、振り返る、改善するなど、ＰＤＣＡを回していける力）を中心に育てていくことが大切です。